



Contents

- ・【巻頭エッセー】図書館に架ける橋… 蔭山真美子 ●表紙
- ・【Parlando Interview】国音は結（ゆい）の世界
久元祐子先生 きき手・關音々子 ●2～5
- ・風景の中で②… 図書館長 井上郷子 /
資料の部屋②… 宇田川もも ●6
- ・【私のおすすめ】… 坂本光太 花岡美伶 ●7
- ・Information ●8

Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.304

【巻頭エッセー】 図書館に架ける橋

蔭山 真美子

「明日に架ける橋」※という曲を、ご存知の方も多いのではないかと思います。～Like a bridge over troubled water, I will lay me down.～この歌詞に重ねるのはいささか強引かもしれませんが、この『ぱるらんど』が私たちと図書館をつなぐ架け橋として、図書館をより身近な存在にしてくれていることは疑いのないことでしょう。かくいう私も『ぱるらんど』の大ファンで毎号欠かさず拝読しています。 なによりタイトルが大好きです。“ぱるらんど”、ゆっくり語りかけるように歌う……。時間に追われ、気持ちに余裕がなくなってしまう自分に気がついた時、「ぱるらんど！」と唱えると、あらふしぎ！気持ちがふっと落ちつきます。

私は音楽療法を専門としていますが、臨床現場で対象児・者と関わる際にも、無意識のうちに“ぱるらんど”で向き合い、話しかけ、演奏していることに気がきます。とりわけ高齢の方を対象に用いる曲や歌は、個々の良い思い出や記憶に繋がりがやすいように、その方が過ごされた当時の楽譜や伴奏をできるだけ用いるようにしています。そのために、いくつかの楽譜を比較検討しながら、その方の記憶にある（であろう）ものを探さなければなりません。そんな時ほど、本学の図書館を頼もしく思うことはありません。

振り返れば私が本学に赴任して一年後、当時図書館長でいらした佐藤真一先生より図書館委員を仰せつかり、「図書館」という言葉に惹かれて即答でお引き受けしたことを思い出します。その後館長を引き継がれた古川聡先生にも

大変お世話になり、図書館のイベント企画にも関わらせていただきました。『ぱるらんど』に何回か記事を書かせていただいたことも、大切な思い出のひとつです。現館長の井上郷子先生とは同年に本学に就任して以来のご縁ですが、M.フェルドマンやL.フェラーリといった現代音楽の作曲家による、数々の作品に触れる貴重なきっかけを頂きました。

2年前にリニューアルされ、より使いやすくお洒落になった本学の図書館、学生たちにも好評です。聞くと、月刊雑誌も含めて種類が多くありがたい反面、目当ての本に限ってなかなか返却されずに、しばし待つこともあると言います。返却期限についてはお互い気を付けたいものですね。私は、入り口の赤ランプが付くことも多く毎回ドキドキします。そんな時にも職員さんの優しく丁寧な対応にとっても助けられています。

最後になりましたが、今後の図書館の益々の発展と、図書館に架ける橋『ぱるらんど』の益々の充実をお祈りしつつ、このあたりで筆を置きたいと思います。

※「明日に架ける橋」原題は“Bridge Over Troubled Water”
作詞・作曲P.Frederic Simon,
サイモン&ガーファンクルが1970年に発表し、全米1位となった楽曲。

●かげやま まみこ 本学教授（音楽療法）